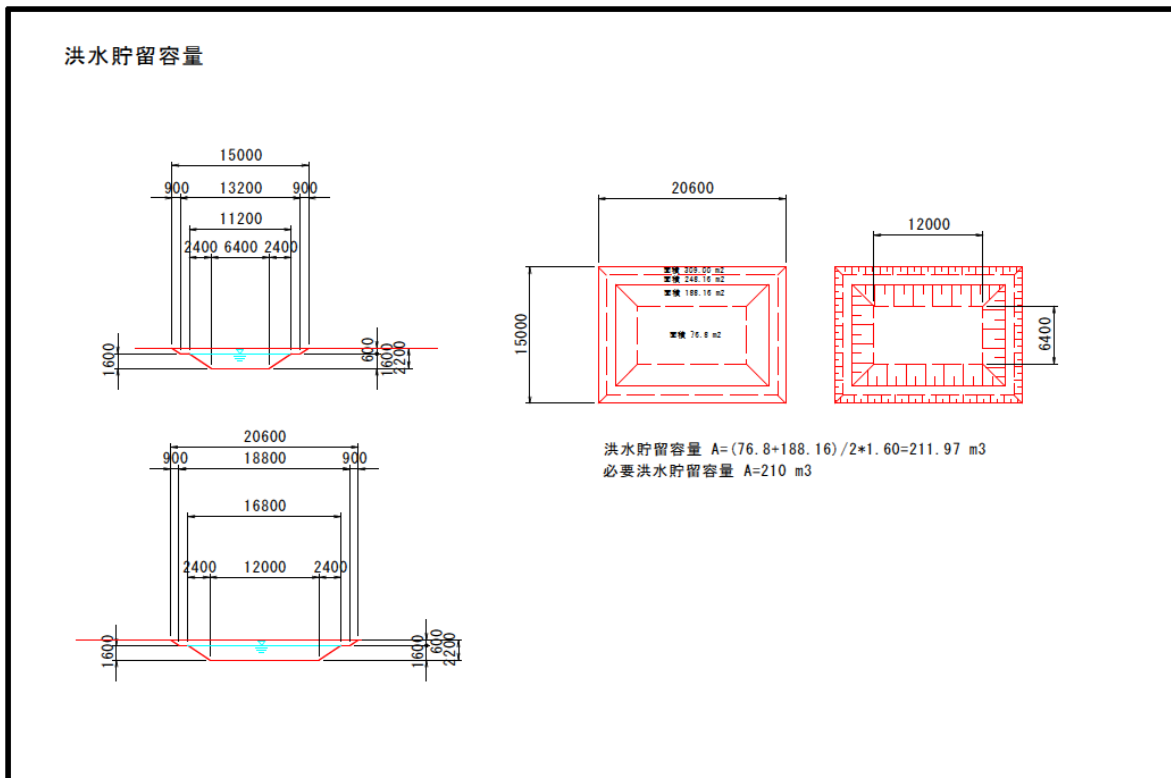


ミルンヤンマ等、低水温環境下生息種に対する沈砂槽からの排水による影響

■沈砂槽（防災調節池）の内容

- ・必要洪水貯留容量：210m³
- ・許容放流量：0.987m³/s
- ・大きさ等：幅20.6m、奥行15.0m、深さ（最深部）：1.6m



■放流先について

- ・放流先は湯川とする

■低水温環境下生息種に対する沈砂槽からの排水による影響

- ・ミルンヤンマ等、低水温環境下に生息する種は、主に舟ヶ沢で確認されている。計画では、舟ヶ沢への放流はないことから、当該地域の低水温環境下生息種の主要な生息環境は保全されると考える。
- ・沈砂槽に滞留し放流される排水は、特に気温が高くなる時期において、沈砂槽流入水と比較し水温が高くなると考えられるが、非降雨時における排水はわずかである。
- ・排水量が大きくなる際の降雨時については、流入水温と排水温に大きな差が生じないものと考えられることから、湯川への放水に対しても影響は小さいものと考えられる。